

夜ごとの美女 (1952)

LES BELLES DU NUIT

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 フランス

色彩 B&W

時間 87分

初公開日 1953/12/25

公開情報 東和

【解説】

貧しい音楽教師のクロードはピアノを弾けば、アパートの前のガレージの親父に怒鳴られ、学校に行く生徒たちにバカにされ、念願の作曲コンクールに出品する作品の完成もはかばかしくなく、面白くない。安らぎを得られるのは夢の中でだけ。夜ごと現われる夢の美女たちと恋を囁きあう。1900年の夢では貴婦人エドメの娘のピアノ教師。オペラ座支配人の夫が彼のオペラの上演を約束してくれる。1830年のアルジェ制圧の夢ではラッパ手になり、アラブの姫君（G・ロロブリジーダ）といい仲に。ルイ16世の時代に赴けば貴族の娘シュザンヌ（M・ヴァンドイユ）が微笑みかける。だが、ふいに目覚めさせられ、再び夢の世界に戻ろうとすると、どの夢もギクシャクとして彼は女たちの夫や兄や父たちに殺されかける。結局、現実の世界にシュザンヌはいて、宿敵ガレージ親父の娘だったが、彼がコンクールに入賞することで二人の仲も許される。R・クレールの持つ二つの側面（前衛映画の旗手だったセンスを窺わず、夢のシーンの安っぽい描き割りなど使ったのシュールな展開。夢から醒めぬ主人公をとりまく下町人情ののどかで温かな描写）がうまく溶け合って、楽しい作品となっている。夢で会う老人が、あの頃は良かったと呟くのには遭遇する度に、出てくるギャグが秀逸（見てのお楽しみ）。

【クレジット】

監督	ルネ・クレール	Rene Clair
脚本	ルネ・クレール	Rene Clair
撮影	アルマン・ティラール	Armand Thirard
音楽	ジョルジュ・オーリック	Georges Auric
出演	ジェラルド・フィリップ	Gerard Philippe
	マルティーヌ・キャロル	Martine Carol
	ジーナ・ロロブリジーダ	Gina Lollobrigida
	マガリ・ヴァンドイユ	Magali Vendeuil
	マリリン・ビュフェル	Marylin Bufferd
	レイモン・コルディ	Raymond Cordy